

平成19年6月

# 平岩里佳 学位論文審査要旨

主 査 中 込 和 幸  
副主査 神 崎 晋  
同 大 野 耕 策

## 主論文

Behavioral and psychiatric disorders in Prader-Willi syndrome: A population study  
in Japan

(Prader-Willi症候群の行動障害と精神症状：日本における検討)

(著者：平岩里佳、前垣義弘、岡明、大野耕策)

平成19年2月 Brain and Development

## 審査結果の要旨

本研究はプラダー・ウイリー症候群（PWS）の社会的不適応の背景にある問題行動や精神症状の頻度を年齢の異なる小児期から若年期で検討したものである。PWSでは成人になるまでに、問題行動や精神症状の頻度が増加することを明らかにした。また年齢、性、知的レベルをマッチさせたその他の原因の知的障害と比較した時も有意に問題行動と精神症状の頻度が高く、この問題がPWSに特異的であることを明らかにした。さらにこれらの問題行動や精神症状はBMIとは無関係で、食欲や肥満と直接関係するものではない可能性を明らかにした。

PWSは遺伝子の欠陥でおこり、この問題行動や精神症状が遺伝子の異常で引き起こされている可能性を示唆し、その遺伝的・脳科学的背景を明らかにすることが今後重要な課題であり、問題行動や精神症状がおこる対人的・社会的背景を理解し、問題行動や精神症状を少なくする療育、教育や介護の必要性を示すもので、明らかに、発達障害医学の領域での学術水準を高めたと認める。